



土の健康診断をしてみよう

【指導員】 園芸課 佐藤 譲

作物別pHの好適生育範囲

pH	野菜		
6.5~7.0	ホウレンソウ		
6.0~7.0	ダイコン	エンドウ	アスパラガス
	キャベツ	トマト	
6.0~6.5	サトイモ	インゲン	ブロッコリー
	エダマメ	カリフラワー	ミツバ
	カボチャ	コマツナ	レタス
	キュウリ	シュンギク	ニラ
	スイートコーン	ショウガ	ネギ
	スイカ	セルリー	ハクサイ
	ソラマメ	チンゲンサイ	ナス
	ピーマン	メロン	
5.5~6.5	カブ	イチゴ	タマネギ
	ゴボウ	ニンジン	
5.5~6.0	サツマイモ		
5.0~6.5	バレイシヨ		

定期的な土壌分析を

土の健康状態をどのように確認していますか？畑にいる虫や農産物の生育状況でも確認することはできますが、毎年農産物を生産することで土壌中の栄養素は確実に失われていきます。定期的に土壌分析を行い、対策をすることは、良質な農作物を作り続けるために極めて有効であり、重要です。

土作りは3つの視点から

「豊かな土」、「地力のある畑」を考えるとときには、**化学性**（pH、肥料成分など）、**物理性**（排水性・保水性、軟らかさ）、**生物性**（有機物の分解、病害抑制など）の3つの視点が求められます。これらは相互に影響しあうため、総合的に考える必要があります。

消費者に求められる作物づくり

これからの農業は消費者の要望に応じた、「安全でおいしい、栄養価の高い作物」を生産していくことが、産地の責務だと考えられます。その実現のためには、土壌中の養分のバランスを改善し、土を健康に維持しなければなりません。それには、過剰な養分を抑え、不足した養分を補う必要があります。よって土を健康にする第一歩が土壌診断なのです。

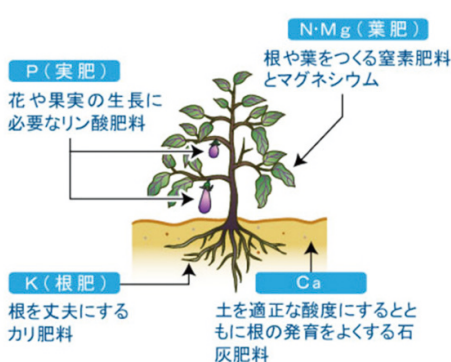
肥料が多すぎることによる弊害

長年にわたり、行ってきた習慣的な堆肥や肥料の施用による、塩基バランスの乱れは作物の病害虫抵抗性の低下・連作障害・土の固化等の大きな要因となっています。こういった土の健康被害は、その土で育つ作物の収量や品質

（味や栄養価）の低下を招きかねません。

肥料の種類と特長

一般に、肥料に使われるのは、5大要素のうち、窒素・リン酸・カリの3要素です。カルシウムとマグネシウムは石灰質資材として、土の酸性度の調整に使われます。（5大要素については平成29年11月号に掲載）



この機会に土壌診断をしてみませんか？ご相談は各営農センターで承りますのでお気軽にご連絡ください。